

## — 卷頭言 —

## 「生きる力」の育成を目指した数学教育

県教育庁教育振興部指導課 指導主事 風戸 正

平成 18 年 12 月に教育基本法が改正され新しい教育の目標などが新たに規定されました。平成 19 年 6 月には教育 3 法が改正され、特に学校教育法の改正では義務教育の目標規定の中で学力の重要な要素が明確に示されました。こうした改正を踏まえ、平成 17 年度から新しい学習指導要領についての審議を進めた結果、今年 1 月に中央教育審議会から、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」という答申が文部科学大臣に出されました。そして、3 月 28 日に文部科学省の告示として新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領が公示されました。この新しい学習指導要領の大きなポイントとして、これからの時代を担う子どもたちに求められているのは、現行学習指導要領の理念を継承した「生きる力」をはぐくむということです。

「生きる力」とは、「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という平成 8 年 7 月の中央教育審議会の答申で示された考え方であり、具体的には次の 3 点とされています。

- ① 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ② 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- ③ たくましく生きるための健康や体力 など

他にも新しい学習指導要領の改訂の基本的な考え方として、基礎的・基本的な知識・技術の習得と思考力・判断力・表現力などの育成とのバランスの重視、道徳教育や体育などの充実により豊かな心や健やかな体の育成などが挙げられています。これらをはぐくむために、学校が家庭や地域社会と協力して、社会全体で子どもたちの育成に努めることが求められています。

学校では子どもたちが学習内容を確実に身に付けることが重要であることは言うまでもありません。生徒の能力・適性、興味・関心等が多岐にわたることから、個に応じた指導を積極的に行い、長所を引き伸ばしながら満足感や充実感を得られるようにすることがわれわれ教師の役目であると思います。特に数学の場合には、単なる知識・技能の習得だけにとどまることなく、作業的活動や体験的活動を取り入れながら、生徒が解決への糸口を見つけ出そうとする態度や能力の育成を図ることが必要となります。生徒の主体的な活動の場面を通して、数学の楽しさを見い出し、さらに意欲を持って取り組んでいくためにも、指導者である私たち教員も一層の努力をしなければならないと思います。

数学だけに限ったことではありませんが、教師の一言が生徒の意欲をかきたてることもあります。日々のコミュニケーションを大切にしながら、魅力ある授業を展開し、今後とも千葉県数学教育のますますの発展に御尽力をお願いします。また、この数学会誌『 $\alpha - \omega$ 』が、先生方の研修の一助として、さらに充実し、ますます活用されることを祈念いたしております。